



全校生徒、67人。宇和島東高校 津島分校は平成31年に生徒の全国募集を開始するも少子化の波に逆らえず、今年度から分校となりました。このまま入学生が少ない状況が続けば、廃校という土俵際に立たされています。

そんな津島分校が学校の魅力化の1つとして取り組んでいるのが特色ある部活動の充実です。今月はその活動を彩る高校生たちを紹介します。

Uwajima East High school Tsushima branch school 相撲部



声援を力に、 いざ全国の舞台へ

宇和島東高校 津島分校 相撲部は、3年生1人、2年生2人、1年生6人の9人で活動しています。7人が県外出身で、全国募集を機に親元を離れて相撲に青春をかけるために集まった生徒たちです。目標はもちろん全国大会優勝。同じ志を持つ仲間たちと切磋琢磨しながら、共同生活を送っています。

彼らの稽古場は校舎と運動場の間を歩いた先にあります。中に入ると、お互いのまわしを締め合う9人の高校生力士たちの姿がありました。全員が準備を終えると土俵を囲み、気合の入った「お願いします」という掛け声で練習が始まります。

まずはストレッチなどの準備運動。これから行われる激しいぶつかり合いに備えて真剣に、そして入念に身体を温めます。それから力士の鍛錬法である四股や摺り足をはじめ腕立て伏せなどの体を作るメニューをこなし、いよいよぶつかり稽古が始まります。100kgを超える身体でぶつかっていき、相手はそれを受け止めます。撮影する私たちのレンズ越しにも伝わるその一瞬の衝撃に息をのみました。練習も終盤に差しかかるのと、部員同士、そして指導者との

申し合い稽古が行われます。

「取り組みを開始する瞬間の立ち合いで8割が決まる」といわれるほど、立ち合いは勝敗を分ける非常に重要な要素です。彼らは、土俵の上で孤独な闘いを強いられます。鍛えぬいた身体がぶつかり合うその一瞬にすべてをかけるために練習を行っているのです。先生の指導にも熱が入り、生徒もそれに応えます。勝利への想いが見る人に独特の緊張感を与え、生み出される激しい熱量に私たちも胸を熱くさせられました。

生徒たちにはもう1つ特別な想いがあります。来年度から本校との部活動連携が始まるため、3月に開催される全国大会が津島分校 相撲部として出場する最後の大会になります。最初はたった1人で入学して来て見知らぬ場所だった津島。今では温かく見守り、支えてくれる人たちとの特別なトコロになりました。津島高校の卒業生や先生、地域の人、そして自分たちを送り出してくれた故郷の家族の想いを背負っていき、全国の土俵へ。

仲間たちとともにその名をどろかせるために全力でぶつかっていきます。

心の火は消させない

今でこそ全国大会に出場する相撲部ですが、その歴史の中では昭和63年の卒業で部員がいなくなり、休部となった時期がありました。そのときの卒業生で当時主将だった松下功次さんが再始動のきっかけを作りました。

松下さんは平成13年に母校津島高校へ職員として赴任してきました。着任したときから生徒が学校生活に対して自信を失くし、無気力な子が多いと感じていました。解決の糸口として出た案が、現在の特色になっているチアリーダーを部にするのと相撲部を復活させることでした。それに対する反発はありましたが、学校を活性化させたいという気持ちで動き出しました。

復活の狼煙

相撲部復活の使命は松下さんに託されました。高校卒業後も相撲を続けていた松下さんは、近隣の県内外の高校には相撲部があるのに津島高校にはないことをさみしく思っていました。また、自分の卒業と同時に休部となったことに

責任を感じ、悔やんでいました。母校のために、何よりこの子たちの豊かな人生の糧になるようにと松下さんの相撲部復活に向けた挑戦が始まりました。

再燃

津島は昔から地元OBの人たちが熱心に相撲を教えていて、今でも小学校すべてに土俵があるほど地域に相撲の文化があり、松下さんもその指導にも関わっています。当時、津島中学校には相撲部がありませんでしたが、小学校から相撲をしている生徒たちがいたので中学校に相撲部を作るお願いにも行きました。それと同時に「津島高校で相撲部をつくらんか」と声をかけ、その誘いに教え子が1人、また1人と部員になり、ついに5人揃った平成17年に「愛媛県総合体育大会」に出場し、19年振りに見事団体優勝しました。津島高校相撲部の歴史が再び動き始めた瞬間です。

その後の大会でも何度も優勝し、現在指導をしている山口怜央さんが平成27年に61年振りに

「全国高校総合体育大会」初優勝を果たすなど、松下さんの熱意に込めるように結果を出しました。

松下さんは以前から自ら全国各地の道場や中学校、送り出す家族のところへ赴き、津島で相撲に打ち込むことの魅力を伝えて部員を集めていました。学校だけでなく、地域で子どもが減っていく時代だからこそ、再び灯った相撲の火をこれからも灯し続けたい。松下さんの熱い想いに応えてやってきた子どもたちの心に、津島で相撲をする覚悟が生み出されます。

地域を輝かせる灯

現在は松下さんの教え子である池田先生が顧問となった津島分校相撲部。松下さんは職場が変わった今でも休みの日に稽古場へ行き、見守りながら良き相談役として関わり続けています。また、松下さんだけでなく地域の人も自分の子どものように高校生たちの生活を支えています。こうして松下さんが灯した熱意は地域全体へと広がり、子どもたちの未来を明るく輝かせます。

もうひとつの家族

高校生たちを自分の子どものように支え続ける地域の人たちがいます。

下宿先として2人の高校生を受け入れる松田さん夫婦は、毎週水曜日に下宿生全員の夕食を一緒に作っています。和気あいあいと台所で料理をする姿は家族のようです。

企業組合津島あぐり工房「あすも」の山下さんも、厳しい練習の後でお腹を空かせた高校生へ食事の差し入れをしています。部員たちも母の日に手料理を作ってくれたり、昨年に角界入りを果たした2人が今でも心配して連絡をくれたりと「宇和島の母」として慕われています。

第2の故郷として、宇和島を楽しんで過ごしてほしい。そんな想いで愛情をたっぷり注ぎ、成長していく子どもたちを温かく見守っています。



Uwajima East High school
Tsushima branch school



-声援を力に、いざ全国の舞台へ-

Uwajima East High school
Tsushima branch school
チアリーダー部



チアリーダー部は四国唯一の日本チアリーディング協会加盟の高校生チームとして地域のイベントや学校行事などを鮮やかに彩っています。発足当時、チアリーディングの経験のあった先生が、中学時代に体操をしていた生徒に声をかけ同好会としてスタートしました。現在は、チアリーディングの吉村さんが津島分校の支援員として働きながらコーチも務め、当時から変わらないユニフォームとともにゼロから学んできた技術や想いを次の世代に伝えていきます。

多いときは20人近くいた部員も現在は11人となり、今年は3年生7人が卒業します。チームで協力してパフォーマンスを行うチアにとって、部員が減ることは演技の幅が狭くなることに直結します。そんな逆境でもこの11人ならきつと乗り越えられるはず。想いを胸に限られた機会の中で最高の演技を魅せ、1人でも多くの心を動かせるように、部員が増えることを願って元気と笑顔を伝えてきました。

3年生は卒業式で自分たちの考えたパフォーマンスを披露し、これまでお世話になった人にエールを送ろうと企画しています。後輩との練習に参加したあと、3年生だけで自主的に集まって練習を行っています。先生や後輩、離れ離れになる同級生、そして自分たちの思い出の1ページになるように、元気と笑顔で花を添えます。

地域が育てる力

部活動は、その学校の魅力となる重要な要素の1つです。自分のやりたい部活動があるから、全国レベルの実績があるからと学校を決める生徒もいます。そして、選んだ学校生活の中でかけがえのない仲間ができたり、生涯のライバルに出会えたりするかもしれない。その舞台を作っていくためには、学校や生徒だけの力ではなく、今回紹介したような地域の人の存在が必要です。

「子どもたちが地域の活力になる。子どもたちのために私たちができることをしている」この言葉こそ、私たちが育てていくべき想いではないでしょうか。今回取材した生徒たちのような前向きな姿は、周りの人たちが元気にしていき、周りの人がその活動を支えることで生徒たちも全力を発揮することができそうです。たとえ土俵に立っていても諦めずに挑戦し続けられたい。この関係が地域の活力につながり、魅力になります。

声援を力に、全国へ。高校生たちの挑戦を応援する1人として、声援を送ります。

夢や目標に向かって進む誰かの背中を後押しする声援。それはときに元気や勇気を呼び起こし、大きな力になります。

かけがえのない時間を過ごしたみんなで今日も頑張る誰かの挑戦に、そして全国の舞台に向かう仲間へエールを送ります。

